

事項一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件

一 日本国及極東共和国兩政府間非公式會議ノ大連開催準備關係一件

八二五 七月十二日 閣議決定

極東共和国ノ希望ニ応ジ通商問題商議ノ形ニ

於テ同国トノ非公式交渉開始ノ方針決定ノ件

極秘

東部西比利亞ニ於ケル政情ハ幾多ノ變遷ヲ經大正九年夏ニ至リ浦塩「ウエルフネ」「ブラゴエ」「チタ」ノ四政權相對立セシカ同年秋統一ノ機運漸ク熟シ「チタ」ニ於テ前記各地方政權代表者會合シ極東統一會議開催ノ結果「セレンガ」河以東ニ極東共和国ヲ建設シ各地方政權ハ其政權ヲ放棄スルニ至レリ而シテ同共和国ハ其基礎未タ充分鞏固ナラスト雖モ本年二月「チタ」ニ憲法會議ヲ開キテ憲法ヲ制定シ自由民主非共產制ヲ採用シ帝國ニ對シテハ屢々親善及通商關係開始ノ希望ヲ表明セリ一方英獨兩國ハ過般相次テ勞農政府ト通商協約ヲ締結シ伊太利、瑞典、丁抹、白耳義等ノ諸国亦之ニ倣ハントスルモノノ如ク米國ハ從來勞農政

府トノ通商ニ反對セルモ過般在本邦大使館附商務官ヲ「チタ」ニ派遣シ実況ヲ視察セシメ前駐支米國公使ハ帰國ノ途次「チタ」ニ向ヒタリ其結果勞農政府又ハ「チタ」政府ニ對シ何時其態度ヲ變スルヤモ計ラレス支那亦「チタ」政府ト通商問題ヲ商議シ居リ要スルニ列國ハ漸次勞農露西亞又ハ極東共和国ト經濟關係ヲ設定スルノ態度ニ出テツツアリ而シテ我西比利亞駐兵ハ言語習慣等ノ差異ニ基ツキ從來屢々各種ノ誤解ヲ惹起シ之カ為メ露人及他外國人ノ排日宣伝ニ利用セラレ殊ニ米國ノ如キハ從來機會アル毎ニ我カ駐兵ヲ悅ハサル意思ヲ表明セリ其ノ他内外ノ事情ニ顧ミ帝國政府ハ此際速ニ極東共和国政府ト通商問題商議ノ形ニ於テ非公式交渉ヲ開始シ以テ將來ニ於ケル日露兩國民ノ親善ヲ計ルト同時ニ西比利亞地方ニ於テ帝國臣民ノ經濟發展ノ地盤ヲ作り帝國ノ利益ヲ進捗スルヲ緊要ト認ム最近「メルクロフ」一派カ「カッペリ」殘党ノ後援ニ依リ

浦塩、「ニコリスク」地方ノ政權ヲ掌握シタルノ事實アルモ未タ獨立政權トシテノ實力ヲ有スルモノトハ認メラレス其勢力ハ日本軍駐屯区域内ニ限ラレ一朝日本軍撤退セハ直

ニ至ルヲ以テ沿海州及北滿洲ヨリ撤兵シ又露西亜側ニ對シ通商ノ便宜ヲ計ルコト

ニ倒壊スルニ至ルヘキハ彼等自身ニ於テモ自覺シ居ルモノノ如ク「セメノフ」一派モ亦目下ノ狀態ニ於テハ到底獨立

(一)「セレンガ」河以東ニ極東共和国ノ既ニ聲明セシ非共產民主制度ヲ確實ニ行フコト

シテ「チタ」政府ニ對抗スルノ實力ナシ從テ帝國政府ハ右浦塩地方ニ於ケル政變ノ為メ毫モ前記交渉ノ開始ヲ躊躇ス

ルヲ亂サントスル不逞行動ヲ防庄スル措置ヲ執ルコト

ル必要ヲ認メサルノミナラス此際躊躇スルニ於テハ右「メルクロフ」、「セメノフ」ノ起事ニ關シ帝國カ窮ニ援助シ

(二)帝國ノ條約上ノ權利及帝國臣民ノ生命財產並既得權ヲ尊重スルコト(漁業權及邦人ト浦潮「チタ」等ノ地方政權トノ契約ヲ含ム)

アルノ疑惑ヲ増シ我ニ不利益ナル形勢ヲ馴致スルノ虞ナキニアラス然ルニ「チタ」政府ハ外務次官「コゼウニコフ」

(三)一般外國人ノ為メニ出入國、居住、營業、産業、交通及沿岸貿易ノ自由ヲ与ヘ並土地所有權又ハ永租權ヲ許与スルコト

ヲ極東ニ派シ頻リニ我方トノ交渉ヲ切望シ居ルニ顧ミ至急我代表者ヲシテ適當ナル地点ニ於テ「チタ」代表者ト會見

(四)要塞の設備ハ之ヲ撤廃シ且ツ帝國ヲ脅威スル如キ軍事的施設ヲ為ササルコト

セシメ先方ノ意思ヲ詳細聴取セシメ左記方針ニ依リ交渉ヲ開始セシムルコト可然

(五)浦潮ヲ純然タル商港ト為シ貿易ヲ阻害スル如キ施設ヲ為ササルコト

一、我方ハ左記條項ニ對シ「チタ」政府ノ承認ヲ求メ同政府ニシテ之ヲ承認セハ從來屢々帝國政府カ駐兵理由トシ

(六)外交官並武官ノ派遣及其通信確保ニ關スル取極其他通商實施ニ關スル詳細ノ事項ハ別ニ協定スルコト

(ハ)尼港事件善後問題ハ之ヲ他日ニ譲ルコト

二、極東共和国政府ニ於テ前記条項ヲ承諾シタルトキハ直接若ハ時宜ニ依リ該政府ヲ通シ莫斯科勞農政府ニ交渉シテ其諒解ヲ求メ本協定ノ実施ヲ妨害セシメサル様必要ノ措置ヲ執ルコト

三、露西亞側カ本協定ニ違反シタル場合ニハ帝国ハ自衛ノ為メ必要ト認ムル措置ヲ執ルコトアルヘキ旨声明スルコト

四、左ノ二項ハ我委員ノ手心ニ一任シ機宜ノ措置ヲ取ラシムルコト

(一)露西亞側ハ黑竜江及松花江ノ航行權ヲ一般外國人ニ開放スルコトヲ承認スルコト

(二)極東共和国政府カ客年末勞農政府ニ讓渡シタル領土

(勘察加州其他)ヲ復旧スルコト

五、最近「チタ」側ヨリ別紙附屬書ノ如ク極メテ非公式ノ形ニ於テ我方ニ提議シ来リタル処右ハ大体我希望ニ接近シ居ルヲ以テ先方ノ誠意アルコト明カナルニ於テハ先以テ先方ノ提議ヲ談判ノ基礎トシテ交渉ヲ進ムルコト

六、本件交渉開始ニ際シテハ本交渉カ浦塩地方ノ政情ニ及

ホス影響ヲ注視シ「メルクロフ」乃至「セメノフ」一派ニ対シテハ大局上「チタ」側トノ妥協ヲ勸告シ尙「チタ」政府ヲシテ彼等ノ生命ノ保障ヲ与ヘシメ生活安定ノ方法ヲ講セシムルコトニ付テハ我方ニ於テ相当尽力スヘキコト並ニ万一彼等ニシテ我交渉ヲ妨ケ我撤兵ヲ妨害スル為メ故意ニ乱ヲ起シ我居留民ニ危害ヲ加フル如キ行為ニ出ツルニ於テハ断シテ之ヲ假借セサルヘキコトヲ諒解セシムルコト

註別紙附屬書ハ外務省記録ニ見当ラズ右ハソーモフ及コゼウニコフヨリ島田副領事ニ申出デタル事項ヲ記載セルモノト認メラル

尚本件ハ外交調査会ニ提出セラレ同会ノ決定ヲ見タリ

八二六 七月十四日

内田外務大臣ヨリ
在ハルビン山内総領事宛(電報)

松島政務部長ト極東共和国代表トノ非公式會

商ヲ大連ニテ行ヒ度旨先方ヘ申入ルル様島田

ヘ訓電ノ件

第五九号

島田ヘ左ノ通り伝ヘラレタシ

遣シ大連ニ於テ「コゼウニコフ」側ト該問題ニ関スル諸件

ヲ内議セシムヘシ「コゼウニコフ」ノ提出セル諸条項ニ対

スル帝國政府ノ意向ハ追テ示ス

右内訓ス

八二八 七月十六日

内田外務大臣ヨリ
在ハルビン山内総領事宛(電報)

島田副領事ノ一応浦潮帰任願ニ対シ回訓ノ件

第六一号

島田ヘ左ノ通り伝ヘラレタシ

在哈爾賓總領事來電第一五二号末段ニ関シ貴官ニ於テ「コ

ゼ」側トノ間ニ在哈爾賓總領事宛往電第五九号訓令ノ趣旨

ニヨリ松島政務部長ト「コゼ」トノ會見(會見日取ハ七月

末ヨリ少々遅ルルコトハ差支ヘナキモ成ルベク速カナルコ

ト望マシ)ニ就キ確實ナル打合セヲ了セラレタル上ハ一応

浦潮ヘ帰任方差支ナシ

但シ政務部長大連行ノ際ハ貴官モ同行ノコトト含ミ置カレ

タシ

松島政務部長ヘ転電アリタシ

本月十五日当地発浦潮ヘ赴任ノ松島政務部長ヲ滿洲事情視察ノ名義ヲ以テ本月末頃大連ニ出張セシメ同地ニ於テ知多政府代表者ト非公式ニ會商ヲ試ミシメタキニ付貴官ハ内密「ソーモフ」ニ対シ松島政務部長滿洲視察ノ為メ大連ニ赴ク筈ナルニ付此機會ニ於テ「コゼウニコフ」ヨリ改メテ知多側ノ意向ヲ申出テ非公式ニ商議スル方可然旨伝ヘラレ其結果電報アリタシ尙ホ外部ノ誤解又ハ妨害ヲ避クル為本件ハ絶対ニ秘密ニ附スル様御申添ヘアリタシ

菊池ヘ転電アリタシ

八二七 七月十四日

山梨陸軍大臣ヨリ
立花浦潮派遣軍司令官宛(電報)

極東共和国側トノ交渉ニ付浦潮派遣軍司令官

ヘ内訓ノ件

西比利問題ニ関スル政府ノ方針ハ五月十三日閣議ニ於テ決定セル所ニシテ前大臣ヨリ貴官ニ内示セラレタル通りナリ最近「コゼウニコフ」カ島田領事ヲ通シ同問題ニ関シ提示セル所アリ政府ハ貴官ガ先ツ彼ト該問題ニ関スル内議ヲ開始シ機ヲ見テ取極ヲ締結セラルヘキヲ希望ス

松島政務部長着任セバ先ツ同人及所要ノ幕僚ヲ關東州ニ派

八二九 七月十七日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

松島政務部長ト極東共和国代表トノ会谈方ニ
付コゼウニコフニ直接申入ルベキヤ島田ヨリ

請訓ノ件

第一五三三

(七月十八日接受)

貴電第五九号ニ関シ

島田ヨリ左ノ通

「ソーモフ」及随員全部ハ十二日「コゼ」ト共ニ齊多ニ向
ヘリ依テ本官ハ十五日東支鉄道附屬地駐在齊多代表「オゼ
ルニン」ヲ往訪シ夫レトナク本官ガ「ソーモフ」ニ面会シ
タキ旨序ノ形ニテ申入レタルニ「オ」ハ「ソ」ハ事務ノ関
係上是非共齊多ニ残ルノ必要アリ從テ当地ニ来ルヤ否ヤ不
明ナルモ早速齊多ニ打電問合スベシト言ヘルニ依リ本官ハ
右結果判明次第通知ヲ請フト輕ク依頼シ置ケリ過日齊多機
関紙「ロシヤ」ノ記者来訪ノ際「ソーモフ」ハ国民議會外
交事務委員長ニ任命セラルル筈ニテ益々中央ニ在リテ重要
ナル任務ニ就クコトナレリ故ニ当地ニ帰来セザルベシト
伝聞スト言ヘルト彼此考フルニ或ハ「ソーモフ」ハ帰来セ
ザルベシト思考セラル又「ソーモフ」ノ事務的才幹ト勢力

島田及コゼウニコフ間ニ予備協定成立セリト

ノ新聞報道ニ付報告ノ件

第一五五号

(七月十八日接受)

当地憲兵隊ヨリ島田ヘノ通知ニ依レバ「コゼ」ハ七月十二
日確ニ出發齊多ニ向ヘル由ナルガ十三日齊多政權当地機關
紙「ロシヤ」記者「ミルキン」ハ島田ヲ来訪シ将来「コ
ゼ」島田ノ行動ニ関シテハ何等掲載スベカラザル旨ノ命令
ニ接シ居レリト語リタル由ニ付「コゼ」ガ機關紙ヲ注意シ
タルハ事実ナリト思考サル然ルニ十四日ノ「ノウオスチ、
ジーズニ」紙ハ共和国日本間予備協約ト題シ「某外国領事
館ヨリ得タル情報ニ拠レバ「コゼ」島田ガ同時ニ出立セル
ハ兩者間ニ行ハレシ交渉ガ協議成立シ署名セラレタルニ依
ル兩者ハ成立シタル予備協定ニ付政府ニ報告ノ為出發セル
モノナリ若シ本協定ニシテ日本共和国兩政府ノ承認スル所
トナラバ通商条約締結並共和国ニ対スル日本ノ承認ニ関シ
公式交渉速ニ開始セラルベシ右公式交渉ハ聞ク所ニ拠レバ
浦潮ニ於テ行ハルベシト尙同様外国側ヨリ聞ク所ニ拠レバ
予備協定ハ約六十条ニ及ブト云フ」

ト報ゼリ「ノウオスチ、ジーズニ」紙ハ曩ニ秘密協定十

根氣ト且ハ極東通ナルトラ以テセバ彼ハ實際齊多政權ニ必
要ナル人物ナルベク此見地ヨリ彼ガ齊多ニ止リ「コゼ」ガ
当方面ニ在リテ互ニ連絡ヲ保ツヲ便利トスルハ勿論ノコト
ナルベキモ過般来「ソーモフ」ハ本官ニ対シ随分大胆ニ言
出シタル關係上「コゼ」ガ将来我方ト交渉ノ懸引上「ソー
モフ」ノ傍ニ存在セザルヲ便利ト思考シ故意ニ口実ヲ設ケ
彼ヲ齊多ニ残サムトスルニアラズヤト惡意ニ解釈スルコト
モ得ベシ若シ「ソーモフ」来ラズ「コゼ」ノミ来ル(二十
二日頃来哈ノ筈)コトトナラバ今回御来示ノ趣旨「コゼ」
ニ直接申入ルノ外ナシト思考ス夫レトモ「ソーモフ」ノ来
哈ヲ飽迄必要トスル旨強ク響カスベキヤ其辺ノ手心ニ就キ
予メ御来示ヲ請フ因ニ過般「ソーモフ」ト本官会見ノ際ハ
常ニ「グレイ」立会シ居リタルガ同人ハ「コゼ」最愛ノ秘
書ニシテ「コゼ」ト必ズ同行来哈スベシト思考ス

政務部ヘ転電セリ

(長春領事館經由七月十七日後六、三五)

八三〇 七月十七日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ケ条成立説ヲ報ジタル關係上力メテ「コゼ」島田間ニ交渉
進行中ナル由ヲ報シ居タルニ依リ今回又々前記ノ通り報道
セシモノト思ハル同紙ガ齊多側ト密接ナル關係アルハ事実
ナルガ如キモ「ロシヤ」紙ガ今日迄沈黙シ居リ独リ「ジ
ズニ」紙ガ今回之ヲ報ジタルヲ以テ「コゼ」ガ宣伝シタル
モノナリト論斷スルハ早計ナリト思考セラル尙島田ハ依然
当地滞在中ナリ

菊池ニ転電セリ(長春中継七月十七日後六時)

八三一 七月十八日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極東共和国外相ユーリンガハルビン及奉天ニ
少時滞在後北京ニ赴ク模様ナル旨報告ノ件

第一五六号

(七月十九日接受)

島田ヨリ左ノ通り

七月十八日「オゼルニン」ガ島田ニ語リタル所ニ拠レバ
「ユーリン」ハ十八日夜当地ニ著車スベシ「ソーモフ」モ
多分同行シ居ルナラム「コゼ」ハ外務大臣代理トシテ齊多
ニ残レリ「ユーリン」ハ当分ハ当地奉天ニ少時滞在ノ上北
京ニ赴クモノノ如シ尙昨今「コゼ」本官間協約成立説ヲ伝

ヘタル本邦新聞記事ハ文新聞紙ニ記載セラレタル為支那側
ハ大狼狽シ居レリ恐ラク支那ハ齊多ト何等カ協定ヲ結バム
ト焦ルナルベシト察スルニ「ユーリン」ノ使命ハ我方ト支
那側ヲ甘ク操ラムトスルニハアラザルカ「コゼ」ハ今回交
渉ノ内容ハ第三国ニモ決シテ知ラスコトナカルベシト声明
シ居タル關係モアリ本官「ユーリン」ト会見ノコトモナ
ラバ予テ御来示ノ通先ヅ以テ交渉内容其他一切ハ勿論支那
側ヘモ知ラスベカラズ右ニ違約シタル場合ハ直ニ交渉ヲ打
切ルベシト申出ヅル心算ナリ

松島部長ヘ転電セリ（長春經由七月十八日後八、二〇）

八三二 七月十九日

内田外務大臣ヨリ
在ハルビン山内総領事宛（電報）

松島部長トチタ側代表トノ会谈方ニ関シコゼ
ウニコフニ直接申入差支無旨島田ニ回訓ノ件

第六二号

貴電第一五三号ニ関シ島田ヘ左ノ通り伝ヘラレタシ
「コゼ」近々来哈スルニ於テハ在哈爾賓總領事宛第五九号
往電ノ趣旨ハ直接「コゼ」ニ申入レラレ差支ヘナシ又貴電
末段「ソーモフ」ニ来哈ヲ促ス趣旨ガ単ニ彼我会見ノ手筈

ヲ定ムル為ナリトセバ其必要ナカルベク尙又彼我交渉ノ際
談判相手方トシテ「コゼ」ノ外「ソーモフ」ヲモ列席セシ
ムルニアリトセバ從來ノ成行上其列席ヲ便トスルハ勿論ナ
ルモ余リ強ク之ヲ響カスコトハ却テ好マシカラザル結果ヲ
惹起スヘシトモ思ハルルニヨリ此点ハ貴官ヨリ「コゼ」ニ
対シ一応ノ「サゼツション」ヲ与ヘラルル位ニ留メラレタ
シ

政務部ヘ転電アリタシ

八三三 七月二十日

内田外務大臣ヨリ
在ハルビン山内総領事宛（電報）

コゼウニコフ氏チタニ止マル場合ニ於ケルユ
ーリントノ会見取極方島田ヘ訓令ノ件

第六三号

貴電第一五六号ニ関シ島田ヘ左ノ通り御伝ヘアリタシ
本件交渉ハ從來ノ成行ニ顧ミ「コゼ」ヲシテ松島トノ間ニ
之ヲ為サシムルヲ便宜ト認ムル次第ナルモ御来報ノ如ク
「コゼ」ガ当分知多ニ止リ本件交渉ニ当ルコト不可能ナリ
トセバ「ユーリン」ヲ相手トシ交渉ヲ進ムルモ差支ナキニ
付貴官ハ「ソーモフ」又場合ニヨリテハ直接「ユーリン」

ニ対シ過般来知多側ノ提議ニ係ル本件交渉ハ先方ニテハ何
人ガ其任ニ当ルベキ手筈ナリト尋ネ若シ「ユーリン」ニシ
テ真ニ右交渉ノ權限ヲ有シ誠実ニ交渉ノ衝ニ当ラントスル
氣勢アルニ於テハ在哈爾賓總領事宛第五九号往電ノ趣旨ニ
ヨリ松島トノ会見ヲ慫慂シ会見日取等ニ就キ打合ヲ了セラ
レタシ尤モ今回米國政府ヨリ提唱セル華盛頓會議ノ次第モ
有之旁々我方ニテ余リアセルガ如キ氣配ヲ示スニ於テハ先
方ヨリ逃ゲヲ打タルガ如キ仕儀ニ陥ラズトモ限ラザル次
第二付貴官ハ此等ノ事情ヲ篤ト御含ミノ上最大ノ注意ヲ以
テ右会見取極方可然御措置相成タシ
政務部長ヘ転電アリタシ

八三四 七月二十一日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

松島政務部長及極東共和国代表間会谈開始間
題ニ付島田副領事ユーリン外相ト会谈ノ件

第一五八号 （極秘） （七月二十一日及二十二日接受）

島田ヨリ左ノ通

「ユーリン」ハ七月十八日着哈シタルモ「ソーモフ」ハ来
ラズ依テ本官ハ十九日「ユーリン」ヲ往訪シタルニ彼ハ本

官ガ「ソーモフ」ト面談シタシトセル「オゼルニン」ノ電報
ニ関シテハ知ルトコロナシト彼ハ曰ク「コゼ」「ソーモ
フ」一行ハ十四日齊多着余ハ「コゼ」ヨリ一通ノ報告ヲ聞
キ其翌日急ニ出立セリ之ヨリ北京ニ赴カムトス「コゼ」ハ
余ノ代理トシテ余ノ帰任迄齊多ニ残ラザルベカラズ「ソー
モフ」モ亦齊多ニ残レリト依テ本官ハ「コゼ」ハ約束ノ通
二十六日頃再来スベシト心得居タルガ事態斯ク變化シタル
ニ付テハ「コゼ」小生間ノ話ハ当分放棄セラルル儀ナリヤ
又貴官ノ当地滞在ヲ何等カ利用サルル心算ナリヤト問ヒタ
ルニ「ユーリン」ハ事情ノ變化並「コゼ」ガ貴官トノ約束
履行不能ハ其旨本人ヨリモ通知ノ筈ナリ「コゼ」滞哈中ノ
行為ハ全部余ノ指揮命令ニ基ケルモノニシテ委細ノ事情ハ
承知ス余ハ大臣トシテ何時何処ニテモ外國トノ交渉ニ応ズ
ベク余今回ノ当地滞在ヲ利用アラムコトヲ望ムト答ヘタル
ヲ以テ本官ハ予テ御来示ノ通「コゼ」ニ為シタルト同様本
件ヲ秘密ニ附スベキコト第三国ニ対シテモ明ニセザルベキ
コト然ラザレバ交渉ヲ中止スベキ旨前提シ「コゼ」「ソー
モフ」等ガ勝手ナル報告ヲ「ユーリン」ニ為シタルヤモ計
ラレザルニ付本官当地出張ノ目的ヨリ「コゼ」浦潮行不能

ノ成行「ソーモフ」「コゼ」トノ會談並本官ノ立場等詳細説明シタルニ彼ハ何等反對意見ヲ述ベザリキ次デ山内総領事宛貴電第五九号末段ノ趣旨ヲ「ユーリン」ニ伝ヘタルニ彼ハ此上重ネテ関東州ニ出張中ノ松島部長ト非公式ニ交渉スルガ如キハ極メテ廻リ遠キ話ナラズヤ日本齊多ノ兩國關係ハ速ニ解決スルノ必要アリ而シテ余ガ大臣トシテ自身出馬シ居ル限り此際日本側ニ於テ正式ニ委員ヲ任命シ大連ニ於テ余ト直接公式ニ交渉ヲ開始セラレテハ如何之ヨリ先ハ責任アル言葉ニ依リ確實ニ話ヲ取纏ムルノ必要アルニアラスヤト述べタルニ依リ本官ハ本件從來ノ話ハ貴官ノ解セラルル程進行シ居ルモノニアラズシテ今直ニ公式交渉ノ時機ニ達セリヤ否ヤヲ疑フモノナルモ御申出ノ儀ハ早速上司ニ伝フベシ(脱)公式ニアラザレバ我方ト話スヲ欲セズト解シ然ルベキヤト念ヲ押シタルニ彼ハ必ズシモ然ラズ唯松島氏トノ非公式ノ會見トセバ大臣タル余ノ出馬ハ具合悪シキニ付日本側ニ於テ飽迄右非公式會見案ヲ固持セラルルニ於テハ余ハ之ガ為適當ノ代理者諭ヘバ「アガリョーフ」ニテモ任命スルノ他ナシ但シ斯クノ如キハ無駄ナル手数ト思考ス尙齊多側ハ將來トモ貴官ト交渉スルモノト思考シ居タル

「コゼ」ト訣別後多分東京ニ赴キタルナルベク其結果日本側ハ彼ノ希望ノ通り委員ニテモ任命シ八月十五日頃大連ニ特派スルノ運ビニ至ルベシトノ見込ヲ立テ其趣旨ヲ「ユーリン」ニ報告シタル結果カ或ハ齊多側カ故意ニ進ンデ斯ル状態ヲ拵ヘント計畫シタル為「ユーリン」自身出馬スルコトトナリ兎モ角北京ニ居リ同地ヲ本拠トシテ我方並支那側トノ交渉ヲ此際ニ纏メントスル底意ニアラズヤト看取セラレタリ

松島へ転電セリ

(長春經由七月二十一日後七、〇〇)

八三五 七月二十一日 在浦潮松島政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍撤退後起リ得ベキ事態ニ鑑ミチタ政權
及浦潮政權ノ取扱方ニ関スル派遣軍ノ意見ヲ
軍參謀長ヨリ陸軍次官ニ電報ノ件

第三九六号 (極秘) (七月二十二日接受)

軍司令官ハ本官ニ於テ齊多政府トノ交渉ニ関スル陸軍大臣ノ詳細ナル訓令ヲ齎シタルモノト思考セシモノト見エ地方出張中ノ參謀長ヲ呼戻シ本官着浦ノ当日會議ヲ開キタルニ

ニ松島ト変ラルルトセバ話ノ連絡絶タルニアラズヤ兎モ角右自分ノ希望ヲ当局ニ取次ガレ度ク余ハ二十日夜当地発北京ニ赴キ當分同地ニ滞在スベキニ付結果在支公使館(日本ノ)又ハ当地「オザルニン」經由御通報アリタシ或ハ日本政府ハ小幡公使ヲ交渉委員ニ任命セラレテハ如何尤モ交渉ニ関スル為ニハ大連ノ方便利ナルニ付問題ノ決スル迄貴官北京ニ来ラレナバ誠ニ好都合ナリ又松島氏ノ大連到着ハ何時頃ナリヤト述べタリ依テ本官上司ヨリ何分ノ指揮アリ次第御知ラセスベシト答ヘ置ケリ

最後ニ「ユーリン」ハ齊多政府部内ニモ此際日本トノ條約締結ニ反對ノ者モアリ然シ外務省ヲ初メ多数ノ者ハ日本トノ親善關係ヲ結バンタメ何等カ條約ヲ速ニ締結スル事ヲ必要ト認メ居レリ若シ右目的ヲ達スル能ハズンバ勢ヒ第三國ニ援助ヲ求メザルヲ得ズトノ説ヲ再三繰返シ暗ニ日本トノ話円滑ニ進行セズバ支那又ハ米国ト何等カ協定ニテモ結バントスルノ意向ヲ仄メカセリ

尙右會談中本官ノ得タル感想ニ依レバ或ハ「コゼ」ハ本官ガ日本外務省ヨリ本件ニ付相當委任權ヲ附与セラレ居ル(本官ハ常ニ否認シ置キタレドモ)モノト推断シ本官ハ

付本件ニ付テハ陸軍大臣ヨリ軍司令官ニ對シ既ニ訓令済ト信シ居リタル旨ヲ述ベ七月十二日ノ閣議並外調ニ於テ決定シタル趣旨ヲ説明シタル処政府ノ方針ハ勿論之ヲ尊重スルモ実行ニ於テ多大ノ困難アルヘシトテ審議ヲ重ネタル上軍ノ意見ヲ決定シ大要左ノ通り陸軍次官ニ電報セリ

日本軍撤退ノ現浦潮政權ニシテ当地ニ在ル多数ノ武器ヲ獲得スルトキハ意外ニ強固トナルヤモ知レズ然レハトテ是等武器ヲ輸送シテ齊多側ニ引渡スコトハ事實上不可能ナルニ付日本軍ノ撤退ニ際シ戰闘ハ開始セラレ我出兵ノ根本義ニ反スルノ事態ヲ惹起スルノミナラズ我軍ハ齊多政府軍ノ追跡ヲ受ケツツ撤退スルノ外觀ヲ呈シ軍トシテ忍ブ能ハザル所ナリ若シ浦潮政權ニ對シ軍隊編成ヲ禁止シツツ逐次撤退シ同時ニ齊多軍ヲ引入レ浦潮ニ在ル武器ヲ之ニ引渡スコトトシ他面ニ於テ齊多側トシテ浦潮側ノ生命ノ安全ヲ保障セシムルコトトスルモ斯カル保障ノ有名無実ナルハ從來ノ歴史ニ徴シテ明カナルニ付日本ハ反過激派ヲ過激派ニ引渡シタルト同様ノ結果トナリ人道上ノ非難ヲ受クルノミナラズ日本ニ對スル露國人心ノ惡化ハ之ヲ避クヘカラズ故ニ齊多浦潮兩者ニ對シ同時ニ交渉ヲ開始シ齊多トノ交渉ニ際シ

テハ沿海州ヲモ包含セシムルト共ニ出来得ル限りノ讓歩ヲ勸告シ以テ兩者ヲ妥協セシムル様努力シ妥協成立セザル場合ニハ各別ニ交渉ヲ纏ムルコトトシタシ云々

右ニ対シ本官ハ齊多政府ニ於テ日本カ兩者ニ交渉ヲ開始スルナラバ交渉ニ応ズルヲ得ズト謂ハバ如何ト質問シタルニ其ノ場合ニハ浦潮トノミ交渉スルノ外ナシトノ意見多数ナリシニ付本官ハ其ノ場合ニハ齊多政府ハ非共產の民主主義ノ仮面ヲ脱シテ沿海州ニ侵入スベク我國境ニ勞農政府ヲ引寄スルノ結果トナルヲ以テ帝國政府ノ意向ニ反スルモノト思考スト述ベ置キタリ

八三六 七月二十一日

浦潮派遣軍參謀長ヨリ
陸軍次官宛(電報)

浦潮政權トチタ政權トノ取扱方ニ付意見具申

ノ件

浦參特一四

(七月二十二日外務省写接受)

松島政務部長ヨリ伝聞スル所ニ依レバ政府ハ浦潮政權ヲ無視シテ齊多トノミ交渉ヲ開始セントスルノ意向ナルガ如ク其ノ理由タルヤ浦潮政權ハ無力ニシテ日本軍ノ撤退ト同時ニ四散消滅スルモノトノ判断ニ基礎ヲ置キアルガ如シ軍ハ

中央部ノ決定シタル方針ノ下ニ最善ヲ盡ス可キモ実行者トシテ熟考スルニ一旦日本軍撤退セハ白党カ自由ニ武装シ当方面ノ形勢ハ一層白党ニ有利トナルヤモ測ラレス然リトテ当方面ニ在ル莫大ノ武器ヲ日本軍ノ手ニ依リ態々「セ」軍ノ方ニ輸送シテ引渡スコトモ事実上不可能ナリ況ヤ日本軍ノ尙駐屯スル期間白党ニハ武装ヲ禁シツツ齊多側申出ノ如ク赤軍ヲ引入ルルハ茲ニ忽チ戦闘ヲ惹起シ啻ニ出兵ノ根本主義ニ反スルノミナラス人道上忍難キ所ニシテ又我軍ノ撤退ニ伴ヒ逐次正規軍ヲ前進セシムル如キモ外見上我軍カ正規軍ノ追躡ヲ受ケツツ退却スルノ姿トナルヘキ虞アリ又仮ニ齊多トノ交渉条件ノ一トシテ争鬭ヲ禁シ白党ノ生命財産ヲ保証セシムルコトトスルモ其実現ヲ見ルコトハ從來ノ歴史ニ鑑ミ保証シ能ハサル所ナリ結局日本軍ハ正規軍ニ白党ヲ引渡シタルコトト同様ノ結果トナル可ク一般露人ニ対スル感情ハ勿論諸外国ヨリモ人道上日本ヲ攻撃スルのトナルコトヲ覚悟セザル可カラス故ニ軍ハ現浦潮政權カ沿海州ノ事実上ノ権力者タル現況ニ鑑ミ兩政府ニ同時ニ交渉ヲ開始シ齊多ニハ沿海州方面ニ關スル条件ヲモ含有セシムルト共ニ有産民主主義ノ実施ヲ慫慂シテ以テ兩者ノ合体ヲ斡旋シ

此ノ妥協成立セザル場合ニ於テハ兩者ニ示威シ個々ニ協定シテ撤兵スルヲ便トス

此ノ兩者有事ノ交渉ハ妥協ノ成不成ニ拘ラス白党側ノ面目ハ維持セシメ並ニ我軍敗退ノ趣ヲ呈スルヲ避ケ得ルト共ニ齊多ヲ脅威シテ交渉ヲ我ニ有利ニ導キ得ルノ利アリ尙右實際ノ情況ニ就テハ委細本日帰朝ノ途ニ上レル菊池總領事ヨリ陳述アルヘシ

八三七 七月二十二日

在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ユーリಂಗ北京訪問ノ使命及日本トノ国交開

始ニ關シ新聞記者ニ対シ為セル談話報告ノ件

第一六三號

(七月二十三日接受)

七月二十一日当地発行「チタ」機關紙「ロシヤ」カ「ユーリン」ノ新聞記者ニ対スル会見談ナリトテ報告セル中ニ左記事項アリ

余今回ノ使命ハ北京ニ於テ対支那交渉ヲ終了セシムルニ在リ支那トノ交渉ハ既ニ一年余ニ亘ル而シテ支那側ハ最近ノ沿海州事件ノ成行ニ注意ヲ払ヒ居レルガ既ニ相互間ニ了解ヲ経タル既報条項ハ本事件ノ為何等ノ變更ヲ蒙ラズ尤モ支

那ガ利害關係國ノ圧迫ニ依リ躊躇シタルハ事実ナリ対日本關係ニ付余ハ外務大臣トシテ關係諸國就中日本ト交渉ヲ行フベシ吾人ハ過去現在ニ於テ相互国交ニ關シ協定スルノ意志アルモ日本代表者ト共和国トノ公式關係ハ存在シ居ラズ三宅少佐ハ軍人代表者トシテ共和国ニ赴クノ委任權ヲ有セラレザル為今尙滿洲里ニ留リ居レリ余ハ少佐カ普通旅客トシテ「チタ」ニ赴クコトハ差支ナキ旨申出デタルモ少佐ハ之ニ応ゼズ依テ島田氏ト談判ノ為哈爾濱ニ來レリトノ新聞記事ハ何等ノ根拠ナシ恐ラク日本政府ハ遂ニハ我方ト話ヲ始ムルニ至ラム蓋シ極東露領ニ於テ自分ノ為一層好都合ナル露國ノ勢力圈トスルノ日本ノ期待ハ頓ニ徒爾ニ終リシヲ以テナリ「メルクロフ」ハ日本ノ期待ニ副ハス日本ハ何人ガ真ノ相手方タルベキ主人ナルカラ知り又彼ト交渉セバ充分協定ノ見込アルベキヲ知り居ルモノト信ズ松島ヘ転電セリ(長春中継七月二十三日前七、〇〇)

八三八 七月二十二日

在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ユーリಂಗ松島政務部長ト大連ニ於テ交渉方

希望ヲ申出デタル旨島田ヨリ報告ノ件

第一六四号（極秘）

（七月二十三日接受）

島田ヨリ

七月二十一日「ユーリン」答礼ノ為メ來訪シ出發ヲ延シ二十一日夕トナセル旨ヲ述ベ且出發前今一度會談シタキ旨申出デタルニ依リ本官ハ同夜彼ヲ往訪シタリ二十一日ニハ山内總領事宛貴電第六三号ニ接シ居リタルモ右ハ同總領事往電第一五八号ト関連シ之行違ヒニ打電セラレタルモノト認メラレタルニ付山内總領事ノ注意ニ依リ「ユーリン」ニ對シテハ本官ヨリ何等申出デザルコトナシ居タル關係上本官ハ態ト事務的會談ヲ差控ヘ居タルガ別レニ際シ本官ヨリ貴官ガ何等カ我ガ上司ニ申出デラルベキ事項アラバ御伝ヘスベシト言ヒタルニ「ユーリン」ハ然ラバトテ本官ヲ引キ留メ「余ハ一日モ早く兩國關係ヲ定ムルヲ必要ト認ム余ハ外務大臣トシテ臨時北京ニ出張スルモノナルガ出張先ナル北京ヲ離レテ非公式會談ノ為特ニ大連ニ行クコトハ不能ニ付此ノ際松島政務部長ガ表面ハ如何ナル名義ニテモ可ナリ正式ニ日本外務大臣ノ委任ヲ受ケ大連ニ來ラルレバ余ハ北京ヨリ大連ニ出張シ氏ト交渉シタシ交渉ノ内容其他ハ勿論秘密ニ附スベシ而シテ右會見ノ際齊多側ハ何等希望ヲ申

關係ニ付請訓ノ件

第四〇〇号 極秘

（七月二十三日接受）

山内總領事發閣下宛第一六四号ニ関シ

「ユーリン」ハ本官ガ正式ニ外務大臣ノ委任ヲ受ケテ交渉ヲ開始センコトヲ申出デ居ルニ付テハ單ニ派遣軍政務部長トシテノ本官トノ交渉ニハ応ズル能ハズト言フヤモ知レズ其ノ場合ニ於テハ如何ニ措置スベキヤ御詮議ノ上予メ御指示ヲ請フ

本件交渉ノ責任者ヲ司令官トスル以上政務部長ハ司令官ノ意圖ヲ受ケ交渉ノ衝ニ當リ調印スル建前トナルニ付仮令外務陸軍兩大臣協議ノ上決定セラレタル事項タリトモ外務大臣ヨリ直接政務部長又ハ部員ニ命令ヲ發スルコトニハ軍司令官ニ於テ異存アリ其ノ理由トスル所ハ軍司令官ニ於テ交渉ノ責任者トシテ調印ノ決議事項ニ對シテモ意見ヲ發表スルノ機會ヲ与ヘラルルヲ要スト言フニアリ故ニ重要事項ヲ外務大臣ヨリ本官ニ命令セラルト同時ニ陸軍大臣ヨリ軍司令官ニ命令シ軍司令官ニ於テ何等反對ノ意見ナキ場合ニ於テ本官ハ司令官ノ指図ニ依リ措置スルノ形式ニ依ルニ非ザレハ司令官ハ責任ヲ取ル能ハズト言フニ至ルベシ

出ヅベキニ付日本側モ希望ヲ申出デラレ互ニ審議協定スル事トシタシ（此点ニ付齊多ノ態度ハ又々後戻リシ我方ヲシテ條件ヲ言ヒ出サシメントスルニ非ズヤト懸念セラレタルニ付本官ヨリ念ヲ押シタルニ「ユーリン」ハ然ラズト言ヒ先般「コゼ」ガ本官ニ對セシ態度ト同一ナルコトヲ明カニシタリ）余ハ北京着後支那政府ニ或ル提議ヲナシ而シテ支那側ヨリ回答ヲ得ルニハ時日ヲ要スベキニ付其ノ間大連ニ赴クコトトシタシ即チ八月一日頃ハ大連ニ在ルヲ得ベシ右ノ次第内田大臣ヘ御伝ヘヲ請フ」ト申出デタリ

次デ彼ハ余ガ齊多出立ノ七月十五日「クラスノ」ハ歐露ニ赴キタルガ右ハ「クリミヤ」ニテ肺病ノ療養ヲナスニアリト言ヒ最後ニ一体日本ハ對「ソヴィエト」政府關係ヲ如何ニセラルル心算ナリヤ日本ガ此ノ際速ニ右關係ヲモ定メ之ト交渉ニ入レバ多大ノ利益ヲ得ラルルナルベシ他國ニ機先ヲ制セラルレバ日本ノ得ベキ利益モ亦少ナルベシト語レリ

松島部長ヘ電ス（長春中継一〇、七〇）

八三九 七月二十三日

在浦潮松島政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ユーリントノ交渉ニ臨ム資格及軍司令官トノ

右御含迄

八四〇 七月二十六日

内田外務大臣ヨリ
在中国吉田臨時代理公使宛（電報）

島田副領事ト極東共和国政府側要人トノ非公
式交渉ノ經過及ユーリンノ申出ニ付通報ノ件

第三七五号 極秘

齊多政府ヨリ通商開始ニ関シ再三申出デアリタル次第ハ既電ノ通りナルガ往電合第一四五号（一）ノ趣旨ニテ閣議決定ノ次第ハ過般浦塩ニ勃發セル政變ノ為メ一時実行ヲ差控ヘ形勢ノ推移ヲ注視シ島田副領事ヲ哈爾濱ニ派遣シテ同地滯留中ノ齊多政府外務次官「コゼウニコフ」ト接觸ヲ保タシメ居リタル処「コゼ」南滿旅行中其代理トシテ外務省參事官「ソーモフ」ハ七月三日島田ニ會見ヲ求メ公式ノ提議ヲ為スニ先チ一應齊多側ノ意向ヲ通ズベキ旨ヲ前置シ齊多政府ハ日本軍撤退ヲ條件トシ幾多ノ譲歩ヲ為スベキ所存ナリトテ具體的提案ヲ為ス所アリ尙ホ又七月九日哈爾濱ニ歸來シタル「コゼウニコフ」ハ右提案ニ二三變更ヲ加ヘタルモ猶ホ該提議ハ將來交渉ノ際協議ノ資料タルベキコトヲ認メタリ其内我方ニ於テハ浦塩政變ニ係ラズ齊多政府ニ於テ誠意

ヲ有スル限リ本件交渉ニ応ズベキコトニ閣議決定シ曩ニ浦塩へ赴任シタル松島政務部長ヲシテ交渉ノ任ニ当ラシムルコトトシ同部長ハ視察ノ為メ大連ニ出張ノ体ニ繕ヒ齊多側ヨリモ代表者ヲ大連ニ派セシメ同地ニ於テ松島ト一先ツ非公式交渉ヲ為サシムベキ手筈ヲ以テ島田ヨリ先方へ申入レシメタルモ「コゼウニコフ」ハ一旦齊多ニ婦リ外務大臣代理トシテ齊多ニ止ルコトナリ「ユーリン」哈爾賓ニ来リタルヲ以テ島田ハ訓令ヲ牀シ同人ト面談シソレトナク先方意向ヲ探リタル処「ユーリン」ハ大要「日本齊多ノ兩國關係ハ速ニ解決スル必要アリ而シテ予ガ大臣トシテ出馬シ居ル限リ此際日本側ニ於テモ正式ニ委員ヲ任命シ大連ニテ予ト直接公式ニ交渉ヲ開始セラレテハ如何、予ハ非公式會談ノ為メ北京ヲ離ルルコト不能ナルモ松島政務部長ニシテ外務大臣ヨリ正式交渉ヲ為ス權限ヲ与ヘラルルニ於テハ余ハ大連ニ赴キ氏ト交渉スベシ」ト述ベタル由ナリ「ユーリン」目下北京滯留中ニシテ本件ニ関シ何等申出ヅル様ノコトモアリ得ベキニ付右成行御含迄

八四一 七月二十七日

在浦潮松島政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

チタ側トノ交渉ノ為大連出張ノ日取ニ付問合
ノ件

第四〇五号

(七月二十七日接受)

「チタ」側トノ交渉ノ為本官出張ニ際シ軍ハ島田副領事將校二名通訊官一名下士若干ヲ隨行セシムルコトニ内定シ交渉案件ニ関シテモ大体研究ヲ遂ゲ司令官ハ重要事項中軍事關係事項ノ外ハ直接外務省ノ訓令ニ依リ交渉ヲ進ムルコトニ異存ナシ本官ノ出張ハ本省ニ於テ研究中ノ交渉案件ニ對スル御意見ノ御示達ヲ受ケタル上ト心得居ル処凡ソ何日頃当地出發ノ準備ヲナシ差支ナキヤ御回電アリタシ

八四二 七月二十八日

在中國吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ユーリン外相ヨリ内田外相宛通商取極ノ商議
開始ヲ求ムル書面ノ転送方ヲアガリヨフヨリ
依頼越ノ件

第五二九号(極秘)

(七月二十八日接受)

貴電第三七五号ニ関シ

七月二十七日「アガリヨフ」ヨリ使ヲ以テ閣下宛「ユーリン」ヨリノ書面転送ヲ依頼シ来レリ該書面ハ最初浦塩ニ於

機密第二二一号

(八月二日接受)

大正十年七月二十八日

在支那

臨時代理公使 吉田 伊三郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

極東共和国代表者来翰写送付ノ件(關係電報往電第

五二九号)

本件ニ関シ左記書類及送付候也

書類 要目

七月二十七日附「アガリヨフ」来翰写及日本外務大臣

宛「ユーリン」書翰

本信写送付先

哈爾賓、浦潮政務部長

(附屬書)

在中國極東共和国使節團長代理アガリヨフヨリ吉田臨時代理公
使宛書翰写

Yoshida, Esquire,

Chargé d'Affaires,

Japanese Legation,

Peking.

八四三 七月二十八日

在中國吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

日本トノ友好通商關係ノ開始ヲ求ムル極東共

和国外務大臣ユーリンヨリ我外務大臣宛書翰

送付ノ件

附屬書

在中國極東共和国使節團長代理ヨリ吉田臨時代
理公使宛書翰写

七月十三日附ユーリン外相ヨリ内田外相宛書翰
送達ノ件

Monsieur le Chargé d'Affaires,

Acting under the instructions of Mr. Ignatius L. Yourin, the Minister of Foreign Affairs of the Far Eastern Republic, I have the honour to forward herewith a note addressed by him to the Minister of Foreign Affairs of the Imperial Japanese Government, which note I beg you to forward to Count Uchida in Tokio.

I avail myself of this opportunity to assure you of my highest consideration.

(Signed) A. Agareff.

Acting President of the Mission of
the Far Eastern Republic to China.

(Signed) M. Kassanin
Secretary.

(附 錄)

七月十三日付ヨロリン外相ヨリ内田外相宛書翰

RÉPUBLIQUE D'EXTRÊME-ORIENT

Ministère des Affaires Étrangères

the Japanese Government is prepared to acknowledge the misconduct of their officials, in which case, we are willing to dismiss the matter with indulgence, being sensible of the fact that the Japanese Government has been forced into a somewhat awkward position in this affair.

At the same time we entertain earnest confidence that Japan will endeavour to find means to replace the irrational connections of to-day by cordial goodwill and natural trust, instead of the animosity which has prevailed in the relations of the two people in recent years. However, we are strongly convinced that Japan would be averse to any measure that might lead towards extending the boundary hostilities which have been a direct outcome of Japan's intervention.

Moreover, we have repeatedly taken precautions to remove every impediment and to avoid possible misunderstandings which might have arisen as a

CABINE DU MINISTRE
TO THE MINISTER OF FOREIGN AFFAIRS OF
THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT

Monsieur le Ministre,

We beg respectfully to draw your attention to the fact that the Japanese Government has omitted to treat with any response the note of the Far Eastern Republic, dated 2nd June, 1921, which bore a direct reference to the events in Vladivostok.

It is evident that the Japanese Government was not in position to advance any excuse or motive that could possibly justify the transgression and unlawful actions on the part of the Japanese Officials, for the obvious reason that the Statements made therein by our Government were based upon such facts as excluded every chance of repudiation, and correctly depicted the conduct of the Japanese Command.

The disregard with which our note had been received, leaves no alternative but to conclude that

sequel of Japan's intervention.

It seems necessary to refer again to the article of my note of 2nd June, 1921, and to urge upon you the idea that the people of the Far Eastern Republic are ready to abolish every recollection of the grievous wrong they have suffered at Japan's hands, and begin the task of creating new relations based upon the principle of strict justice and reciprocal sympathy.

On scores of occasions our Government has proposed to enter upon business negotiations with the Japanese merchants and grant free admittance and protection to every variety of industrial enterprise. We continue to offer these negotiations and are willing to assure you that hospitable reception would be accorded to those of your countrymen who might deem it advantageous to open trade relations with us.

It is no fault of ours that up to now we had been restrained by Japanese bayonets; and there can be

little chance of establishing any practicable and mutually beneficial work, save on condition that Japan renounce the former policy of threats.

We are ready to discuss any commercial arrangement the Japanese Government may choose to advance, but think it advisable to open direct negotiations. The place of meeting could be either Chita or Tokio, the choice of which we leave entirely to your convenience. Upon receipt of a statement of your desires, our representatives will be provided with full power to act on our behalf.

Awaiting your reply, I remain, Monsieur le Ministre, etc., etc., etc.

Minister of Foreign Affairs of
the Far Eastern Republic.

(Signed) Ignatius L. Yourin.

Chita, 13 July, 1921.

八四四 七月二十八日 内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

(一) 黒竜江及松花江航行權ヲ一般外國人ニ開放スルコト

(二) 極東共和国政府カ客年末勞農政府ニ讓渡シタル領土ヲ
復旧スルコト

ノ二條件ヲ追加シ之ヲ齊多政府代表者ニ提示シ其承認ヲ求
メ猶同政府ニ於テ前記條項ヲ承諾シタルトキハ直接若ハ時
宜ニ依リ該政府ヲ通ジ莫斯科政府ニ交渉シテ其諒解ヲ求メ
本協定ノ實施ヲ妨害セシメザル様必要ノ措置ヲ執ルコトニ
定メタル処五月末浦塩ニ政變勃発シタル為メ一時其實行ヲ
差控ヘタルモ浦塩臨時政府及「セメノフ」一派ノ實力ニ照
ラシ毫モ前記交渉ヲ躊躇スル必要ヲ認メザルノミナラズ齊
多側ハ其後重ネテ本件交渉速開ノ希望ヲ表明シ本月ニ入り
テ非公式ニ先方ヨリ交渉ニ関シ具體的提案ヲ為ス所アリ又
最近北京ニ赴キタル齊多政府外務大臣「ユーリン」ハ大連
ニ於テ我方代表者ト正式交渉ヲ開始シタキ旨提議スル所ア
リタリ旁々我方ニ於テハ此際速ニ本件交渉ヲ開始スルヲ得
策ト認メ彼我会见ノ手筈定マルニ於テハ過般浦塩ニ赴任シ
タル松島政務部長ニ事情視察ノ名義ヲ以テ大連ニ出張ヲ命
ジ交渉ノ任ニ当ラシムル筈ナリ

將又前記齊多側提案ハ大体我希望ニ接近シ居ルヲ以テ先以

チタ政府トノ通商其他ノ取極ノ為同政府ト近
ク大連ニ於テ交渉開始ノ方針ナル旨内報ノ件

第三二〇号 (極秘)

往電合第一四五号所載齊多政府トノ通商其他ニ関スル取極
ニ関シ當時我方ニ於テハ速ニ交渉ヲ開始スルコトニ廟議決
定シ

(一) 極東共和国ガ有産的民主制度ヲ確實ニ行フコト

(二) 過激派の宣伝ノ防止及不逞鮮人ノ取締ヲナスコト

(三) 帝國ノ條約上ノ權利及帝國臣民ノ生命財産並ニ既得權
ヲ尊重スルコト

(四) 一般外國人ノ為ニ出入國、居住、營業、産業、交通及
沿岸貿易ノ自由ヲ与ヘ且ツ土地所有權又ハ永租權ヲ許与
スルコト

(五) 要塞の設備ハ之ヲ撤廢シ且ツ帝國ヲ脅威スルガ如キ軍
事的施設ヲ為サザルコト

(六) 浦塩ヲ純然タル商港ト為スコト

(七) 外交官並ニ武官ノ派遣及其通信確保

(八) 尼港事件善後問題ハ之ヲ他日ニ讓ルコト

及時宜ニヨリテハ

テ先方提議ヲ談判ノ基礎トシテ交渉ヲ進ムル所存ナルガ先
方提案中各種利權ヲ日本人ニ讓与スルノ申出モアル処右ハ
本交渉ヨリ切り離シ齊多政府ト本邦企業者トノ間ノ私的交
渉ニ任ス考ナリ要スルニ本取極ハ撤兵後ニ於テ我居留民ガ
其生命財産ヲ脅カサルコトナク平和的ニ經濟的發展ヲ為
シ得ルコト及帝國ニ對スル脅威ヲ除クコトニ就キ相当ノ保
障ヲ得タル上可成速ニ撤兵セントスルノ趣旨ニシテ随テ何
等独占の利益ヲ獲得ヲ求メズ一般外國人モ之ニ均霑シ露國
人自身モ亦國內ノ産業ヲ發達シ得ルノ利益ヲ享受スル次第
ニテ之ニ依リ門戸開放機會均等ノ実ヲ挙ゲ得ルコトナル
ベシ

右貴官限リノ御含迄

在英仏大使ヘ転電アリタシ

八四五 七月二十九日 在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極東共和国外務大臣代理ニヤンソン任命ノ件

第一六九号

(七月三十日接受)

七月二十九日「オゼルニン」ノ島田ニ語ル所ニ依レバ「チ
タ」外務大臣代理トシテ「ヤンソン」任命セラレタリト尙

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 八四六
同日「チタ」政府当地代表者ハ島田ニ対シ「コゼ」再ビ当地ニ来ルベシト云ヘルガ右ニ付「オゼルニン」ハ「チタ」ヨリ何等通報ニ接シ居ラズト云ヘル由
政務部へ転電セリ

八四六 七月二十九日 在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
日本ト極東共和国トノ交渉開始ノ報道ニ関スルミハイロフノ批判報告ノ件

第一七〇号 （七月三十日接受）
元「オムスク」大蔵大臣現東支鉄道沿線經濟調査委員長「ミハイロフ」七月二十八日島田ヲ来訪會議中自分ハ日本ノ軍事干涉ニ反対ニシテ日本ノ沿海州撤兵ヲ已ムヲ得ズト認ムルモ最近日本ノ外交当局ガ齊多ト交渉ヲ開始セントスルノ報ヲ耳ニシ日本ノ外交の干涉ハ軍事干涉ニ比シ露國ノ為數千倍害アリト謂ハント欲ス然リトテ日本軍駐屯区域内ニハ秩序アリトモ認メズト述ヘ尙日本ガ齊多ト通商開始ノ際ハ日本商人ノミ共和国ニ入ルベキヤ將又共和国国民モ日本ニ入ルベキヤ、新聞紙ニ現ハルル松島氏ノ言ハ事實ナリヤト語リタルニ付島田ハ誤解ナキ様然ルヘク彼ニ説明シタル

頭ヲ以テ「帝國政府ハ親善及通商關係商議ニ関スル齊多政府ノ申出ニ応シ商議ヲ開始スルニ異議ナシ尤モ本件商議ノ場所ハ大連ヲ以テ尤モ便宜ナリト信ズ猶我方ニ於テハ在浦塩政務部長松島肇ヲシテ交渉ノ任ニ当ラシムベキニ付彼我會見ノ日取ヲ確定シ以テ議場其他ヲ準備スル必要上齊多政府代表者カ何日迄ニ大連ニ到着シ得ルヤヲ承知シタシ」トノ旨ヲ伝ヘシメラレタク尙其際本件交渉ニ関スル経緯ハ差当リ之ヲ嚴秘ニ附スルヲ必要トスル旨申入レシメタシ

八四九 八月三日 内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚總領事宛（電報）
チタ政府ノ商議開始方申出ニ応ズル旨ヲ可然方法ニ依リユーリンニ申入方訓令ノ件

第一二五号
在支代理公使ヨリ別電第一二六号ノ通り来電アリタルニ対シ別電第一二七号ノ通り回訓シタル処「ユーリン」ハ八月一日北京發張作霖ニ會見ノ為貴地ニ向ヒタル趣ナルニ付別電第一二七号ノ件ハ貴官ヨリ「ユーリン」ヘ可然方法ニ依リ極内密ニ申入レノ上結果当方及政務部、北京、哈爾濱ヘ電報アリタシ

八四七 八四八
由ナリ
松島へ転電セリ

八四七 七月三十日 在浦潮松島政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
松島政務部長ガチタ側ト交渉ノ資格ヲ有スル旨軍司令官ニ於テ証明スルニ異議ナキ件
第四〇七号 （七月三十日接受）
松平ヘ左ノ通り

齊多側トノ交渉ニ際スル本官ノ資格ニ関シ高柳少將ノ確メタル所ニ依レバ軍司令官ハ「松島ハ齊多側ト交渉スルノ資格（権限）アリ」ト云フ意味ノ証明書ヲ發スルコトニ異議ナシトノコトナリ 御参考迄ニ報ズ

八四八 八月一日 内田外務大臣ヨリ
在中国吉田臨時代理公使宛（電報）
日本国政府ハ親善及通商關係商議開始ニ関スルチタ政府ノ申出ニ応ズル旨ユーリンニ伝達方訓令ノ件
第三八四号 極秘

貴電第五二九号ニ関シ貴館員ヲシテ「ユーリン」ニ対シロ

尙方一同人ニシテ直ニ哈爾濱ニ向ヒタル場合ニハ本件ハ山内総領事ヲシテ取計ハシムル様電報アリ度シ
山内へ転電アリタシ別電転電ニ及バズ

註一 別電第一二六号ハ在中国吉田臨時代理公使宛内田外務大臣宛電報第五二九号ノ全文ナリ
2 別電第一二七号ハ内田大臣宛在中國吉田臨時代理公使宛電報第三八四号ノ全文ナリ

八五〇 八月三日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松島政務部長宛（電報）
チタ政府ノ申出ニ関シ在奉天赤塚總領事ヲシテユーリンニ回答セシムルコトトセル旨通報ノ件

第一一〇号 極秘
往電第一〇七号ニ関シ
在支代理公使来電ニ依レハ「ユーリン」ハ八月一日北京發奉天ヘ向フコトナリ北京ヘ歸ラザルヤモ計ラレザル趣ナルニ付本件ハ在奉天總領事ヲシテ直接「ユーリン」ニ申入レシムルト同時ニ為念在支公使館ヨリ「アガリョフ」ニモ申伝ヘシムルコトトセリ

註 八月一日内田外務大臣發松島政務部長宛電報第一〇七号ハ前掲外務大臣發在中國吉田臨時代理公使宛電報第三八四号ヲ轉電セルモノナリ

八五一 八月四日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本政府ハチタ政府ノ通商關係商議開始方ニ
關スル申出ニ応ズル旨ユーリンニ傳達済ノ件

第二六四号

(八月四日接受)

貴電第一二五号ニ關シ

本月三日夜密ニ「ユーリン」ヲ当地大和「ホテル」ニ訪問シ御訓令ノ次第ヲ伝ヘタルニ彼ハ早速此ノ趣ヲ齊多政府ニ電報シ其ノ回答ヲ本官ニ通報スベシ但シ都合ニ依リ不日北京若クハ哈爾濱ニ赴ク筈ニ付当地滯在中右回答ニ接セザル時ハ何レ北京若クハ哈爾濱ニ於テ接スベキニ付其節ハ小幡公使若クハ在哈爾濱總領事ニ傳達スヘシト約束セリ
北京哈爾濱松島政務部長ニ電報セリ

八五二 八月七日 在浦潮派遣軍參謀長ヨリ
陸軍次官宛(電報)

チタ政府トノ協定実施ノ段取ニ關シ意見具申
及駐兵ノ一部継続等ニ關スル中央部ノ意向問

八五三 八月九日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

チタ政府ハユーリンヲ其代表トシテ松島政務
部長ト大連ニ於テ会商セシムルコトニ決定セ
ル旨ユーリン申出ノ件

第二七〇号

(八月九日接受)

往電第二六四号ニ關シ

九日朝「ユーリン」ハ其ノ秘書ヲ本官ノ許ニ遣ハシ齊多政府ヨリ「ユーリン」ヲ其ノ代表トシテ大連ニ於テ松島政務部長ト会商セシムベク回訓ニ接シタル旨ヲ告ゲ其ノ際彼等一行五名ニ対スル特別ノ保護並暗号通信ノ接受外交使者ノ往復等ニ關シ特ニ便宜ヲ与ヘラレタキ旨申出デタリ尙「ユーリン」ハ可成速ニ大連ニ向ヒタキ希望ナル趣ニ付松島部長大連着ノ日取り御電示ヲ請フ
大連ニ於ケル會議ノ場所並「ユーリン」一行ノ保護ニ付テハ關東長官ニ然ルベク御指揮ノ上結果之亦御電示ヲ請フ
政務部長公使哈爾濱ヘ電報セリ

八五四 八月十一日 浦潮派遣軍參謀長ヨリ
陸軍次官宛(電報)

合ノ件

浦參特二一

知多側トノ交渉ニ際シ其ノ実施手順ハ先ヅ基礎条件ヲ締結シテ中央部ノ容認ヲ經タル後撤兵ニ關スル協定ヲ遂ゲ此ガ成立後撤兵聲明セラレ次テ其ノ実施ニ就クノ段取ニシテ通商其ノ他細部ノ取極ハ此ヲ第二次交渉ニ移スヘキモノト思考ス而シテ基礎条件ニ關シテハ閣議決定事項(到着済)ノ外尙「コゼ」ノ提案ニ対スル中央部ノ意見ノ到着ヲ待チツアル次第ニシテ撤兵ニ關スル協定ニ就テハ軍ニ於テ策定済ナルモ左記國策ニ關スル事項ニ対シ予メ中央部ノ意向ヲ承知シ置度シ

一条約履行ノ監視及爾後協定ノ進捗ヲ有利ナラシメ且ハ朝鮮國境援護ノ為メ暫時日本軍ノ一部ヲ「ボセツト」附近ニ駐屯セシム

二押収物件中其ノ不正使用ガ露人相互間ノミナラズ日本人其他ノ外國人ニ対シ流血ノ慘ヲ齎スヘキ物件ニ關シテハ其処分ヲ將來ニ保留ス即チ後日正當露國政府成立ノ場合曩ニ帝政時代ニ売却セシ火器等ノ代償品ニ引當ツル等ノ下心ナリ尙ホ内地還送品意見ニ就テハ別電ス

浦潮派遣軍ノ考究セル日本撤兵ニ關スル協定

案具申ノ件

浦參特二五

(八月十二日外務省写接受)

軍ノ研究セル撤兵協定案左ノ如シ

在西伯利日本軍ハ自己ノ意志ニ依リ撤兵ヲ實施ス其ノ要求左ノ如シ

一日本軍撤去ニ際シ其ノ最後部隊(「ボセツト」部隊ヲ除ク)ハ乗船終了迄ハ共和国ニ屬スル武装団体(民警ヲ含ム)ノ「イマン」河以南烏蘇里鐵道西側三十吉米以内ノ地区ニ進入スルヲ禁ス(或ハ日本軍蘇城「ウゴリナヤ」ノ線以南ノ地区ニ集結スル迄ハ上記ノ線以内ニ統テ乗船終了迄ハ「ニコリスク」以南「カンガウス」以西ノ地区ニ進入スルヲ禁ス)

二「バルチザン」其ノ他匪徒ノ行動ニシテ日本軍撤去ニ影響ヲ及ホスカ如キ場合ニ於テハ日本軍ハ其ノ行動ヲ變更スルコトアルヘシ

三條約履行監視ノ為暫時日本軍ノ一部ヲ「ボセツト」附近ニ駐屯セシム駐屯ニ伴フ諸問題ニ關シテハ別ニ協議スル筈右ト同様ノ主旨ニ基キ在浦潮日本帝國臣民ハ暫時武装自

衛団ヲ組織ス

四日本軍撤兵後鐵道守備ニ關シテハ聯合國監督協約ノ精神ニ基キ同鐵道委員會ノ決議ニ依ル

五日本軍ハ其ノ鐵道ニ施シタル一切ノ作業設備及ヒ電線ヲ現状ノ儘無償ニテ露國側ニ交付ス但シ是等諸作業ノ為露國側ヨリ提供セル材料及ヒ其ノ代金ハ露國側ハ請求セス六押収物件中其ノ不正使用ハ以テ露國人相互ノミナラス日本ノ其ノ他ノ外國人ニ對シ流血ノ慘ヲ齎スヘキ物件ニ就テハ日本軍ハ其ノ処分ヲ將來ニ保留ス

(備考)

本案ハ基礎協約成立ニ次テ日本側ヨリ本案ヲ覚書トシテ提出シ之カ承認ヲ求メ兩國政府承認ノ後先ツ撤兵ヲ声明シ然ル後之ヲ実施スルモノトス

八五五 八月十一日 尾野陸軍次官ヨリ
埴原外務次官宛

極東共和国トノ交渉ノ実施順序ニ付浦潮派遣
軍參謀長ニ發シタル電報通牒ノ件

陸軍省通達西密第一二六号 (八月十二日接受)

西伯利問題交渉ニ關スル件通牒

八五六 八月十一日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松島政務部長宛

チタ政府トノ通商其他ノ事項取極交渉方ニ關
スル件

歐一機密送第一八号

本件交渉ニ關スル閣議決定ノ方針ハ御承知ノ通りナル処其後「コゼウニコフ」及其意ヲ承ケテ「ソーモフ」ノ島田副領事ニ申入レタル非公式提案ハ大体ニ於テ我方既定方針ニ接近シ且先方提案ヲ談判ノ基礎トスルコトハ我方ヨリ条件ヲ突キ附ケルガ如キ感触ヲ与フルコトナキヲ以テ右ヲ以テ交渉ノ基礎トスル方然ルベク而シテ右提案ニ對スル我方意見ハ陸軍側トモ打合セ別添附屬書^(註)ノ通り相定メタルモ右意見書ハ先方ノ提案ガ確定的ナラザルニ顧ミ我方方針ノ概略ヲ記スルニ止リ絶對的ノモノニモ無之具体的且ツ細目の事項ニ關シテハ交渉開始後問題發生ニ伴ヒ更ニ審議ヲ加ヘントスル趣旨ニ有之候尙ホ本件交渉進捗シ取極案成立スル場合ニモ最後ニ於テ彼我兩政府ノ認諾ヲ得テ初メテ効力ヲ發生スル義ニ付右様御承知相成度尙右ノ次第ハ先方ヲシテ最初ヨリ了解セシメ置ク様御取計相成度此段申進候也

大正十年八月十一日

八九八

外務次官 埴原 正直殿 陸軍次官 尾野 実信(印)

首題ノ件ニ關シ八月十日別紙ノ通浦潮派遣軍參謀長ニ電報ヲ以テ回答致候条及通牒候也

(別紙)

八月十日陸軍次官發浦潮派遣軍參謀長宛電報

浦參特二一返

知多側トノ交渉ノ実施順序ハ先ツ通商ヲ協議シ中央部ノ容認ヲ經タル後之ヲ締結スルニアリ

撤兵ハ帝國累次ノ声明ニ基キ自發的ニ行フモノニシテ知多側ト協定スベキ筋合ノモノニアラザルモ撤兵ニ際シ知多側ノ軍事行動ヲ制肘スル必要上何等カノ協定ヲナスコトハ必要ナルヘシ

通商ニ伴フ細部ノ取極ハ撤兵以前ニ行ハルヘキモノナルモ情況ニヨリテハ或ハ大体ノ協議成ルニ於テハ撤兵ヲ開始スルニ至ルヤモ計ラレズ又「コゼ」ノ提案ニ對スル意見近日通知ス「ボセツト」駐兵、押収兵器等ニ關シテモ多分之下前後シテ当方ノ意見通知シ得ル見込ナリ

註別添附屬書記録ニ存セズ八月十二日内田外務大臣發松島政務

部長宛電報第一一三号(後掲)ニ依レバ該附屬書ハ前掲八月

十一日尾野陸軍次官發埴原外務次官宛西密第一二六号ノ別紙

電報ト同一内容ト認メラル

八五七 八月十二日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松島政務部長宛

チタ政府ト交渉ニ際スル代表資格ニ關スル件

附屬書 右資格証明書

歐一機密送第一九号

貴官今般齊多政府代表者ト会同通商其他ノ事項ニ付商議ヲ開始セラレ候ニ就テハ齊多政府現在ノ狀態ニ顧ミ國際慣例ニ基ク正式ノ全權委任狀ヲ貴官ニ附与スルコト能ハズ一方又在奉天赤塚總領事ヨリ「ユーリン」ニ對シ貴官ガ交渉ノ任ニ當ラルルコトハ既ニ通告済ミノ次第ナルヲ以テ相成ルベクバ何等當方ヨリノ資格証明書ヲ先方ニ提示スルコトナク其儘直ニ交渉ニ入ラルルヲ希望スル義ニ有之モ客月二十二日山内總領事發來電第一六四号所載ノ如ク先方ニ於テ本大臣ヨリノ文書提示方執拗ニ要求スル場合ヲ予想シ別添貴官資格証明書ヲ及御送附次第二有之万止ムヲ得ザル場合ニ

ハ右提示相成リ差支ヘ無之候（陸軍省參謀本部ト打合せ済ミ）尙ホ其際先方ニ於テ右文書ヲ以テ不充分ナリトシ全權委任狀ノ提示ヲ求ムルガ如キコトアラバ齊多政府ガ正式承認ヲ受ケ居ラザル關係上之ヲ附与スル事態ニアラザル旨ヲ主張相成度ク此段申進候也

（附屬書）

松島政務部長ノチタ政府トノ交渉ニ際スル資格証明書

浦塩派遣軍政務部長松島肇ハ齊多極東共和国政府ノ正当委任ヲ有スル代表者ト会合シ帝國ト極東共和国トノ間ニ於ケル通商其他ニ関スル事項ニ付商議ヲ開始シ取極ヲ締結スヘキ權限ヲ有スル者ナリ

大正十年八月十二日

日本帝國政府外務大臣伯爵 内田 康哉（印）

（右英訳文）（註 末尾日附以下省略）

Mr. Hajime Matsushima, chief of Political Department of the Japanese Expeditionary forces in Siberia, is authorized to conduct negotiations with the duly authorized representative of the Government of the Far Eastern Republic at Chita, and to

conclude an agreement regarding commerce and other matters between Japan and the Far East Republic.

八五八 八月十二日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮松島政務部長宛（電報）

チタ側提示ノ条件ニ対スル我方意見取纏メ陸軍省ヨリ浦潮派遣軍ニ電報スル旨等通報ノ件

第一一三号

齊多側提示ノ条件ニ付スル我方意見ハ陸軍側トモ協議ノ上大体之ヲ取纏メタルガ右ハ陸軍省ヨリ電報スル旨ニ付右ニテ御考究アリタク該正本ハ本大臣發給ニ係ル貴官權限証明ト共ニ本十二日当地発ノ米川属ニ携帯セシム同属ハ貴官ニ随伴ノ為メ出張ヲ命ゼラレタルモノニシテ十三日敦賀発鳳山丸ニテ貴地ニ向フ（其外立石書記生ヲ牛莊ヨリ大連ニ向ケ出張セシムル手筈ナリ）尙ホ先方ヘ通告ノ都合アルニ付貴官大連到着ノ日取至急電報アリタク又米川ハ前記書類ノ外電信符号モ携ヘ居ルニ付通関方其他便宜御供与アリタシ

八五九 八月十五日

在浦潮松島政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

大連著予定ノ日取回報ノ件

第四一七号

貴電第一一三号ニ関シ

途中内外人殊ニ外人トノ接触ヲ避クル為本官一行ハ御用船ニテ十六日若クハ十七日当地発元山ニ赴キ朝鮮經由大連ニ向フコトトシ二十日又ハ二十一日同地着ノ予定ナリ島田副領事ニハ右ノ趣旨通知ノ上直接大連ニ向ハシム一行人員ハ関東庁ニ通報済ミ

八六〇 八月十六日

内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚総領事宛（電報）

松島政務部長大連著予定ノ日取ヲユーリンニ

伝フル様訓令ノ件

第一三七号

貴電第二六四号ニ関シ浦塩派遣軍ヨリ陸軍省宛電報ニヨレハ松島政務部長ハ齊多側代表者ト会见ノ目的ヲ以テ本月十六日又ハ十七日浦塩発朝鮮經由二十日又ハ二十一日大連著ノ予定ナルニ付右ノ趣「ユーリン」ヘ御伝ヘノ上先方大連

著ノ日取確メラレタシ尙ホ貴電御申越ノ「ユーリン」一行ニ対スル保護並ニ便宜供与ニ就テハ陸軍省ヨリ関東州參謀長ヘ打電シ関東州長官ト協議ノ上措置スル様訓令方取計ヒ置キタリ
在支公使及山内総領事ヘ転電アリタシ

八六一 八月十六日

陸軍次官ヨリ
関東軍參謀長宛（電報）

大連會議開催ニ付極東共和国代表一行ノ保護及便宜供与並ニ會議場及宿舍ノ準備可然措置方指示ノ件

今回知多政府代表者ト浦塩軍政務部長トノ間ニ大連ニ於テ會議開催ニ付テハ関東庁ト協議ノ上左ノ如ク取計ハレ度
一、知多政府代表者一行ノ保護
二、知多代表者ノ電報（暗号モ）發受、外交使者ノ往復等ニ便宜供与
三、會議場及宿舍ノ準備、但浦塩軍ノ派遣者トモ協議ノ上設備セラレ度
又知多政府代表者大連滞在中ノ給養ハ我方ニテハ受持タザルコトト承知アリ度

四、以上諸件ニ関シテハ別ニ関東長官ヘハ通報セザルニ付
貴軍ニ於テ關係ノ向ト協議アリ度

八六二 八月十九日

在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極東共和国外相ユーリン大連着日取報告ノ件

第二八二号

(八月十九日接受)

貴電第一三七号ニ関シ

「ユーリン」ハ八月二十三日朝当地発ノ列車ニテ大連ニ赴
クコトニ決定シタル旨通知シ来レリ右北京並関東長官ヘ電
報セリ

八六三 八月十九日

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

極東共和国トノ交渉開始ニ関シ日本ノ態度ヲ

米國政府ニ通報方訓令ノ件

別 電

同日内田外務大臣發幣原大使宛電報第三七二号

右米國政府ニ申入ルベキ趣旨

第三七二号

「チタ」政府ト我方トノ間ニ交渉開始方打合中ノ次第ハ御
承知ノ通ナルガ「チタ」側ハ目下奉天滞在中ナル「ユーリ

然ルニ客年秋從來各地方ニ割拠セル地方政權ニ於テ統一ヲ
希望シ各自妥協ノ結果極東共和国ヲ建設シ憲法議會ヲ開キ
非共產の民主制度ヲ声明セリチタ政府ハ未ダ其ノ基礎鞏固
ナラズト雖目下之ニ代ルヘキ有力ナル政府存在セス而シテ
同政府ハ帝國政府ニ対シ親善及通商關係樹立ヲ希望シ交渉
開始ヲ提議シ来リタルヲ以テ帝國政府ハ之ニ応ジ数日内ニ
代表者ヲシテ同政府代表者ト関東州ノ一地点ニ於テ通商其
他ノ問題ニ付商議セシムルコトニ決定セリ
右商議ノ主タル目的ハ通商ニ関スル取極並ニ居留民ノ安全
帝國ニ対スル脅威ノ除去過激派宣伝ノ禁止及各種産業ノ自
由等ニ関シ保障ヲ得ントスルモノニシテ我方ニ於テ何等独
占の利益ヲ獲得セントスルモノニ非ズ即チ門戸開放機會均
等主義ヲ実行セントスルニ外ナラズ
帝國政府ハ以上ノ目的ヲ以テチタ政府トノ間ニ自由ニ意見
ヲ交換シ若シ同政府ニシテ誠意交渉ニ当リ前記諸件ニ関シ
相当ノ保障ヲ与フルニ於テハ既定ノ方針ニ從ヒ速ニ沿海州
ヨリ撤兵ヲ実行セントス

尤モ尼港虐殺事件ノ解決ハ之ヲ後日ニ譲ル積リナリ

ン」ヲ代表者ニ任命シ我方代表松島政務部長トノ間ニ来ル
二十一日頃ヨリ大連ニ於テ交渉開始ノ運ト為リタル処本件
ノ大体ハ貴任國政府ノ承知ニ入レ置クコト可然ト思考スル
ニ依リ貴官ハ同政府内密ノ含トシテ別電第三七二号ノ趣旨
ヲ通報セラレタシ

右訓令トシテ別電ト共ニ在英大使ヘ転電アリタシ

(別 電)

八月十九日内田外務大臣發在米國幣原大使宛電報第三七二号

極東共和国トノ交渉開始ニ関シ日本側ノ態度ニ付米國政府ニ申
入ルベキ趣旨

第三七二号

帝國政府ハ客年夏「チェック」軍救済ノ目的達成セラルル
ト共ニ黑竜江州及後貝加爾州ヨリ撤兵シタルモ當時極東露
西亜ノ政情猶混沌トシテ直ニ全部ノ撤兵ヲ行フニ於テハ朝
鮮ニ対スル過激派煽動ノ虞レ並ニ浦潮附近ニ在住セル帝國
臣民ノ生命財産ニ対スル危險アリタルヲ以テ止ムヲ得ズ一
部軍隊ヲ沿海州ノ一部ニ殘留シタルモ帝國政府ハ猶常ニ同
地方ノ政情安定シ一日モ速ニ撤兵ヲ実行シ得ンコトヲ希望
セリ

八六四 八月二十日

山梨陸軍大臣ヨリ
立花浦潮派遣軍司令官宛(電報)

チタ側トノ通商協定発効要件及軍事上細部ノ

協定ニ関スル中央政府ノ意向訓示ノ件

附 記一

八月十七日陸軍省ヨリ外務省ニ内示ノ意見書

二

八月十九日外務省ヨリ陸軍省ニ回示ノ意見書

知多側代表トノ通商商議ニ際シ協定案成立スル場合ニアリ
テモ彼我兩政府ノ認諾ヲ得テ始メテ効力ヲ發生スル義ニ付
承知アリタシ又軍事上細部ノ協定ニ関スル中央政府ノ意向ハ
別電ノ通ニ付右ニ準拠シ交渉ヲ進メラレタク尙関東軍ニ関
スル件ハ貴軍ト協議ノ上支那側ト交渉スル様関東軍ニ通知
セリ 松島濟

註 別電省略、左掲ノ附記一及同ニ參看

(附 記一)

八月十七日陸軍省ヨリ外務省ニ内示ノ意見書

日本国及極東共和国間ノ軍事上細部ノ協定ニ関シ浦潮派遣軍ニ
与ヘントスル陸軍中央部ノ意向ニ関スル件

大正十年八月十七日

陸軍省軍事課

軍事上細部ノ協定ニ関シ浦潮派遣軍ニ与フル中央部ノ意向

一、撤兵実施ニ関スル細部ノ協定ハ浦潮派遣軍ニ於テ適当ト認ムル方法ニ依リ取極ムルコト

二、撤兵後條約履行監視等ノ為其ノ一部ヲ残置スルコト無シ又日本帝国臣民ノ武装自衛団組織ニ関スル件ハ細部ノ協定ニ之ヲ掲ケザルコト(本自衛団ノ必要ニ際シテハ別ニ浦潮領事ニ依リテ交渉ヲナサシムルヲ可トス而シテ本件ハ領事団ノ決議ヲ要スヘキ性質ノモノナルヘシ)

三、我接壤地方ノ露領ニ於テ少クモ「モンクガイ」河谷(之ヲ含ム)以南ノ地域ニハ日本軍撤退後ニアリテモ一定數ノ自治民警ヲ除ク外一切ノ露国武装団体ノ駐屯ヲ禁止ス然レトモ不逞団体等ヲ掃蕩スルカ為メ某期間ニ限リ其ノ行動ヲナスコトヲ得但シ此際ニアリテハ事前ニ於テ日本政府ニ通告シ日本政府ハ場合ニ依リ此種行動ヲ拒絶スルコトアルヘシ

不逞団体ノ企図等ニ依リ我治安上必要ト認ムル場合ニ於テハ日本軍ハ隨時自衛ノ為メ我接壤地方ノ露領ニ軍隊ヲ派遣スルノ權ヲ保留ス

ト

九、日本武官ヲ知多浦潮哈府武市及尼市等ニ配置スルノ權ヲ保有シ露国側ハ敵ニ之ヲ保護シ其ノ通信ニ関スル保障ヲナスコト

哈爾賓滿洲里其ノ他ニ日本武官ヲ配置スルコトニ関シテハ關東軍ニ於テ支那側ト協議スルコト

(欄外註記)

「八月十七日工藤少佐持参(欧米局第一課)」

(附記二)

八月十九日外務省ヨリ陸軍省ニ回示ノ意見書

日本国及極東共和国間ノ軍事上細部ノ協定ニ関スル陸軍中央部ノ意向ニ付外務省意見通報ノ件

軍事上細部ノ協定ニ関シ浦潮派遣軍ニ与フル陸軍中央部ノ意向ニ付

外務省意見

第二項 括弧内削除方可然

第三項前半「掃蕩スルカ為メ」ノ次ニ「予メ日本側ト協議ノ上」ヲ挿入シ「但シ」ヨリ以下削除方可然

後半ハ万一露国側ニシテ協定ニ違反シ充分不逞団体ノ取締ヲ行ハサル場合ニハ我方ハ閣議決定第三項ノ声明ニ基

四、要塞ノ撤廢露軍ノ配置其ノ他軍事的施設ノ制限等ニ関スル細部ノ協定ニ就テハ浦潮派遣軍ニ一任スルモ既設要塞ノ撤廢ニ就テハ作戰機能ヲ失ハシムル程度ニ至ラシムルヲ主眼トシ其ノ実行方法ニ関シテハ爾後ノ國際關係等ヲ顧慮スルノ要アリ

五、日本軍撤退後ノ鐵道守備ニ関シテハ現ニ警備ニ任シア爾鐵道民警ヲシテ一時之ニ当ラシメ聯合國鐵道委員會ニハ適時此旨ヲ通告スルニ止ムルヲ可トス

六、日本軍ハ其ノ鐵道ニ施シタル一切ノ作業設備及電線ヲ現状ノ儘無償ニテ露国側ニ交付ス但シ是等諸作業ノ為メ露国側ヨリ提供セル材料及其ノ代金ハ露国側之ヲ請求セザルヲ条件トス

七、押収物件及「オムスク」政府讓渡予定ノ軍需品ノ処分ニ就テハ八月八日附西密第一二四号押収軍需品其ノ他ノ処分ニ関スル件通牒ニ基キ浦潮派遣軍ニ於テ実施スルモ其ノ処分ヲ将来ニ保留スルコト無ク成ル可ク迅速ニ処理シ撤兵ノ終期ニ於テ結了セシムル如ク努ムルコト

八、北滿洲ニ於ケル關東軍隷下部隊ノ撤退ハ關東軍ニ於テ適時支那側ト協議ノ上浦潮派遣軍撤退終了後実施スルコ

ツキ自衛ノ為メ必要ナル措置ヲ執リ得ルニ依リ之ヲ削除スル方可然ト思考ス

第四項 要塞破壞等ハ露国民ノ感情ヲ刺激セザル為メ協定ニ從ヒ可成露国人ノ手ニテ之ヲ実行セシムルコト必要ナリ

第九項 哈爾賓、滿洲里ニ付テハ露西亜側ニ対シテハ談及セサルコト可然

(欄外註記)

「八月十九日陸軍省へ送付済」

八六五 八月二十一日 内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛
(電報)

チタ側トノ商議開始ニ関シ英米兩國ニ内報シタル件

第一号

這回我方ガ「チタ」側ト通商其他ノ問題ニ付商議ヲ開始スルコトトナリタル次第並ニ商議ノ主タル目的大要ハ英米兩國政府ニ内報シタリ御含迄

八六六 八月二十四日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛

大連會議ニ関スル浦潮露字新聞ノ論調ニ付報
告ノ件

附屬書 日本国對極東共和国交渉ニ関スル露紙論調

公第一八〇号 (八月二十九日接受)

大正十年八月二十四日

在浦潮斯德

總領事代理 領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大連会商ノ報当地ニ伝ヘラレシ以来当地邦字及露字新聞ハ盛ニ評論ヲ試ミツツアルカ内露字新聞ノ論調ハ概シテ左党紙ハ一般ニ之ヲ歡迎シ右党紙ハ喜ハサル態度ヲ示シ居候ニ付右概要別紙ノ通供貴覽候 敬具

(附屬書)

日本国對極東共和国交渉ニ関スル露紙最近論調(左党ハ之ヲ歡迎シ右党ハ之ヲ喜バザルノ論調ナリ)

左党紙ノ論調大略

日本カ從來知多ト交渉ヲ開始セサリシ理由ハ知多政府ハ共產主義者ノ政府ナリト称シテ往再今日ニ及ヒタルモ最近労働露国ノ基礎堅実ヲ加ヘ極東ニ其力ヲ割キ得ルニ至レルト

極東共和国カ蒙古ニ其威力ヲ示シ米國トノ親近ハ有望トナリ同時ニ米國大統領カ日本ノ行動ヲ抑制スルノ意ヲ諷示セシヨリ日本ハ心ナラスモ知多ト折衝セサルヲ得サルニ至レリ尙ホ今次開始サレントスル日本ト知多政府トノ交渉ニ干シ「反對党紙(右党新聞)ハ交渉成立センカ日本軍ハ沿海州ヲ撤兵シ諸種利權ノ貸下条約ハ締結サレ之ヨリ得タル代償金ハ知多政府ノ囊中ニ入ルモノナリ之レ即チ極東事情ノ變化ト云フヘシ尙又日本軍ノ最後部隊カ金角灣頭ヲ撤退スル日コソ全西伯利亞カ本国(労働露国)ニ連結サセラルヘキ日ナルコトヲ信ス從テ極東緩衝設置ノ条件モ自然ニ消滅スルモノナリ」ト論ス然レトモ斯ノ如キ例証ハ事新シキモノニ非ス吾人ハ日本外交官カ相当ノ保証ヲ要望スルコトハ予期セル所ニシテ右党紙ノ老婆心的ノ議論ヲ俟タサルナリ然レトモ前述ノ議論ノ如キハ枝葉ニテ層一層重要ナルモノアリ之レ即チ自ラ愛國者ヲ以テ任スル者ハ露國カ安定ニ赴クヤウ喜ヒ勇ンテ勉メサルヘカラス然ルニ何ソヤ右党ノ輩ハ沿海州ヲ露国ニ連結スルコトヲ憂慮セルトハ

右党紙論調ノ大要

吾人ハ日本カ海外發展ヲ容易ナラシメンカタメ今次知多政

八六七 八月二十四日 浦潮派遣軍參謀長ヨリ
陸軍次官宛(電報)

日本国及極東共和国間軍事上細部ノ協定ニ関
スル中央政府ノ意向ニ対スル派遣軍ノ意向報告
ノ件

浦參特四〇

八月二十日發西二五六別電第四項ニ関スル軍ノ意向報告ス
浦潮要塞ハ日本軍ニ於テ悉ク其裝備ヲ撤去シ爾後露國側ヲ
シテ全ク該要塞ヲ廢棄開放シ何等ノ補修又ハ施設ヲ行ハシ
メザルコト又極東共和国ヲシテ将来日本海沿岸及朝鮮國境
ニ於テ總テノ陸海軍事施設ヲ行ハザルコトヲ約セシムル外
本件ニ関シ特ニ細部事項ノ協定ヲ行ハズ其他南部烏蘇里以
外露軍ノ組織配置等ニ関シテハ特別ノ制限ヲ加ヘズ

註 八月二十日發西二五六トハ前掲八月二十日山梨陸軍大臣發立
花浦潮派遣軍司令官宛電報ヲ指スモノト認メラル其別電ハ省
略セルガ右別電第四項左ノ通

「要塞(新設モ含ム)ノ撤廢、露軍ノ配置其ノ他軍事的施設ノ制限等ニ関スル細部ノ協定ニ就テハ浦潮派遣軍ニ一任シ露國側ヲシテ実施セシムルモ既設要塞ノ撤廢ニ就テハ作

府ト交渉ヲ開始セントスルモノナルコトヲ知ル實ニ日本ハ原料品ヲ求ムルタメ精製品ノ販路ヲ求ムルタメ大陸ニ進展セサルヘカヲサルコトハ尤モノコトナリ然レトモ冷靜ニ考慮セヨ知多政府否ナ労働露政府トシテヨク交渉ノ条件ヲ万遺憾ナク履行シ得ルヤ彼ハ何物ヲモ有セス故ニ凡百ノ交渉条件文書モ民主共產政府ニトリテハ一片ノ反古ニ過キス吾人ハ日本軍ノ最後部隊カ金角灣頭ヲ去ル日コソ全極東カ労働露国ニ連結セラルヘキ日ナルコトヲ知ル且ツ日本軍撤兵實現ノ曉ハ莫斯科ノ現狀ヨリ察知シテ我カ沿海州ニ於テモ非常ニ過激派化スルコトハ火ヲ睹ルヨリ明ナリ其結果ハ過激主義ハ独リ沿海州ノミナラス朝鮮ニ及フヘシ此時ニ於テ日本ハ大陸ニ止ルヲ得ス自國ニ帰ラサルヘカヲサルカ如キ運命ニ遭遇スルナリ尙ホ今や歐露モ知多モ飢饉疫病赤貧混亂ノタメ殆ト瓦解セントスルニ際シ日本カ之ト握手セントスルハ露国ヲ目的トスルニ非ス其背後ニアル独逸ヲ對象トスルモノナリ故ニ協商各國ハ此二大國ノ同盟ハ将来世界各國人ヲ頗使スルモノトシテ大ニ之カ反對ヲ唱ヘツツアリ云々(從來中間紙ト目シタル新聞ハ概シテ左党紙ト論調ヲ同ジクセリ)

戰機能ヲ失ハシムル程度ニ至ラシムルヲ目途トシ其ノ実行方法ニ関シテハ爾後ノ國際關係等ヲ顧慮スルノ要アリ」

八六八 八月二十五日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

ユーリン八月二十四日大連著ノ件

第四号

(八月二十六日接受)

「ユーリン」二十四日書記官二名ヲ隨ヘ著連非公式ニ会見シタル処準備ノ都合モアルニ付二十六日ヨリ交渉ヲ開始シタシト述ヘ尙「コゼウニコフ」モ多分来ルコトと思フモ何時到着スルヤ不明ナリト云ヘリ

八六九 八月二十六日

内田外務大臣ヨリ
在シカゴ桑島領事宛(電報)

我方ノチタ政府トノ交渉ニ関スルシカゴ、デ
イリ、ニュースノ誤報訂正方訓令ノ件

第一五号

往電合第一四五号所載齊多政府トノ交渉ハ大連ニ於テ行フコトトナリタル処右ニ関シ八月二十六日「ウッド」發貴地宛 Daily News 電報ハ誤報勘カラズ就中各種利權獲得「ボシエット」灣割讓及東支鐵道管理權獲得云々ノ如キハ全然

スルノ必要ナキ旨ヲ説明シタルモ先方ハ齊多政府ヘ報告ノ必要アリトテ強ヒテ委任狀ノ提示ヲ求メタルニ付各自ノ委任狀ノ内容ヲ説明シタル上次回會議ニ於テ互ニ提示スルコトトシ會議ヲ進ム)

本官、交渉ニ際シテハ過去ノ事件ニ触ルルコトヲ避ケ虚心坦懷根本問題ヲ商議シ速ニ會議ヲ終ルコトニ努メタシ

「ユ」、誠ニ同感ナリ

本官、日本ト極東共和国トノ親善關係樹立ノ為大連ニ於テ會商スルコトハ既ニ世間ニ知レ居ル管ナルニ「イマン」方面ニ於ケル貴国官憲ノ日本軍ニ對スル態度及貴国軍隊ノ鐵道守備ノ任ニ在ル日本軍隊ニ對スル最近ニ於ケル襲撃等ハ本官ノ甚タ了解ニ苦シム所ニシテ果ヲ本交渉ニ及ボスモノト信ズルニ付齊多政府ヨリ地方官憲ニ對シ速ニ嚴重訓令スル様取計アリタシ

「ユ」ハ右ニ答フル前ニ互ニ秘密ニスヘシト約シタル本會議ニ関シ日本ノ新聞紙ハ盛シニ論議シ居ル様ナルカ會議ノ秘密ニ関シ將來如何スヘキヤト問ヒタルニ付新聞紙ノ記事ハ哈爾濱ニ於ケル島田「コゼ」ノ非公式会見及本官滿鮮視察ノ途次齊多側ヨリ何等申出アラバ之ニ応ズベシトノ本

事實ニアラズ我方ニ於テハ本件交渉ニ依リ何等独占の利益ヲ獲得セントスル次第第二非ザルヲ以テ右御含ノ上前記電報新聞ニ掲載セラルル場合ニハ適當ノ方法ニヨリ正誤方取計ハレタシ
華盛頓及紐育ニ転電アリタシ

二 大連會議關係一件

八七〇 八月二十六日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大連會議第一回會議ノ要領報告ノ件

合第一号

(八月二十七日接受)

八月二十六日第一回會議要領

本官、本官ハ齊多側代表者ト正式交渉ニ入ルノ權限ヲ有スル処貴官モ正式交渉ヲ為サントスルモノナリヤ「ユーリン」、然リ就テハ互ニ全權委任狀ヲ提示シテ交渉ニ移リタシ

(於是本官ハ或ハ英露協約ノ場合ヲ引用シ或ハ齊多政府ガ未ダ承認セラレザルヲ理由トシテ正式ニ全權委任狀ヲ提示

官ノ説明等ヲ根拠トシテ新聞記者ガ勝手ニ想像シタルモノナリト説明シ且何月何日会見等ノ事實ハ之ヲ秘密ニスル能ハズ又交渉ノ成行ヲ全然秘密ニスルトキハ新聞記者ハ各種ノ想像ヲ逞ウシ却テ世間ヲ迷ハスノ虞アルニ付會議ノ進行ニ伴ヒ互ニ相談ノ上差支ナキ程度ニ於テ隨時發表スルコトトシテハ如何ト提議シタルニ先方ハ之ニ同意セリ)

「ユ」、齊多側ハ本會議ニ関シ秘密ヲ守リタルヲ以テ地方官憲ニ於テハ何等知ル所ナカルベキモ地方官憲ハ中央政府ト同ジク日本トノ親善ヲ希望シ居ルモノナルヲ以テ最近ノ日本軍ニ對スル出来事ハ齊多官憲側ノ所為ニアラザルヘシト推察ス尤モ念ノ為中央政府ヨリ相当訓令ヲ下ス様取計フヘシ

本官、最近ノ事件ニ於テ敵ヨリ得タル鹵獲品中ニ「イマン」宣伝部ノ宣伝文五十部アリタルニ徴スレバ敵ハ貴国官憲ト關係アリタルコト疑ヲ容レズト雖貴国官憲ニ於テ從來日露ノ親善ヲ企図シ居リ今回更ニ訓令ヲ發セラルル以上ハ今後若シ日本軍ニ敵對行動ヲ取ルモノアラバ貴國ニ關係ナキモノト認メ日本軍ハ之カ撃破ノ手段ヲ執ルベキニ付其旨齊多政府ニ予メ通知シ置カレタシ